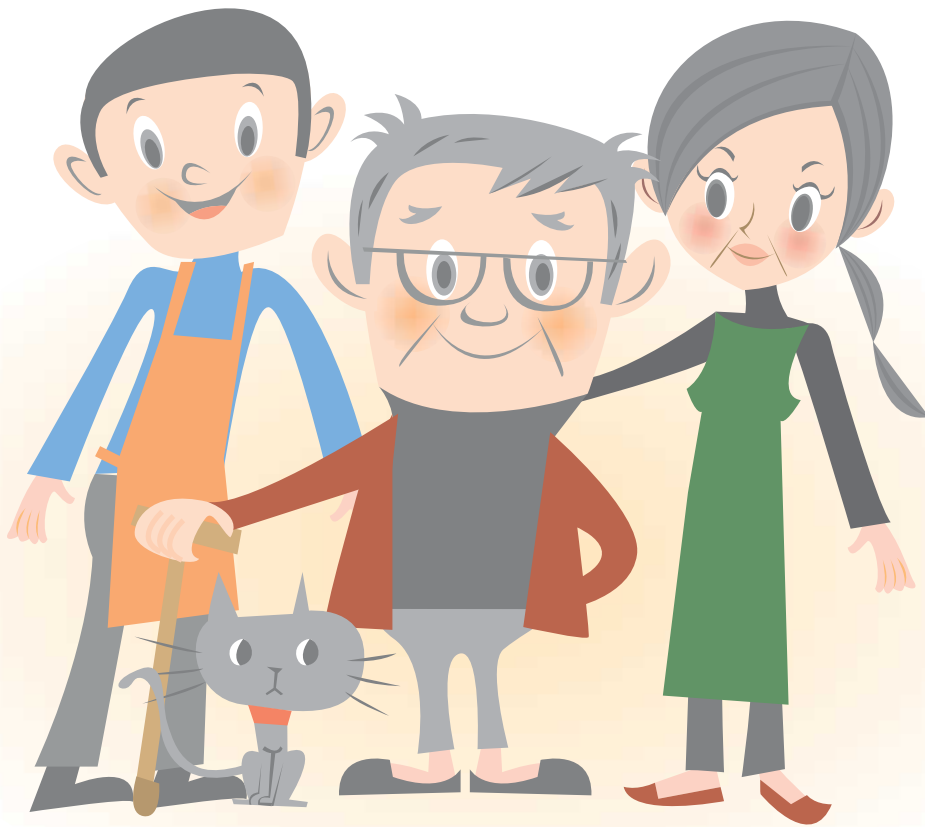


2008
よかぜ
No.20



特集 “介護をあるとき されるとき”

—その時あなたは？—

★もくじ★

特集 “介護をするとき されるとき”

—その時あなたは？—

最近考えたこと

Bookコーナー

朝霞市女性総合相談

いろいろ情報

あさか女と男ひとひとセミナーを開催しました

「そよかぜ」企画・編集委員より



Q もしも、今後自分が年をとったり病気などで介護が必要となったとき誰に介護してもらいたいですか？それはなぜですか？

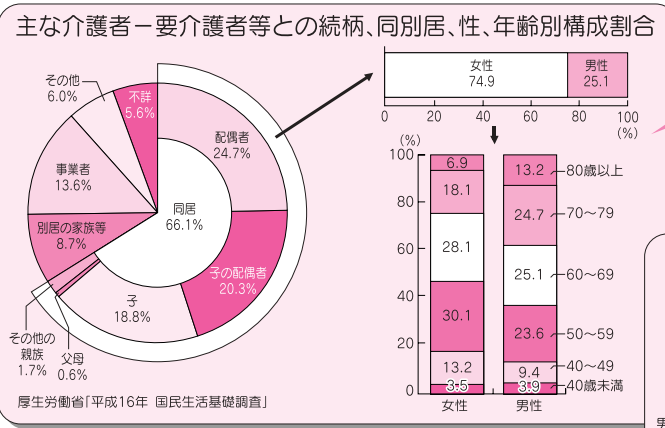
【30代】
 ●介護保険制度も活用したい。金銭的に余裕があれば手厚いサービスが受けられる施設に入居するのが理想。(夫と一緒に)(女性) ●娘か夫。気が知れているので。(女性)
 ●夫、子どもか施設。出来る限りは家族と一緒にいたい。重度になったら専門の所。(女性)
 ●夫か施設。出来る限りは自分で出来ることはしたい。家族と一緒にいたい。(女性)
 ●子ども。本来は妻にと思うが、同年代には大きな負担。(男性)
 ●妻。他に考えつかなかった。(男性)
 ●介護の専門家。家族(夫や娘)には、出来る範囲の付き添い、見舞いをお願いしたい。家での介護は(状態によるが)家族への負担が大きい。(女性)

【40代】
 ●身内以外の施設の方。身内には介護されたくない。(女性) ●ヘルパーさん*。子どもが男ばかりなので。(女性) ●夫。一番わがままを言えて、かつわがままを聞いてくれそう。(女性)
 ●病院および専門の施設のヘルパーさん。子どもに迷惑をかけたくない。(女性)
 ●介護知識のある専門の人。息子しかいないので、身内に看てもらうよりは他人の方がいい。(女性)
 ●娘。娘しかいないから。(男性)

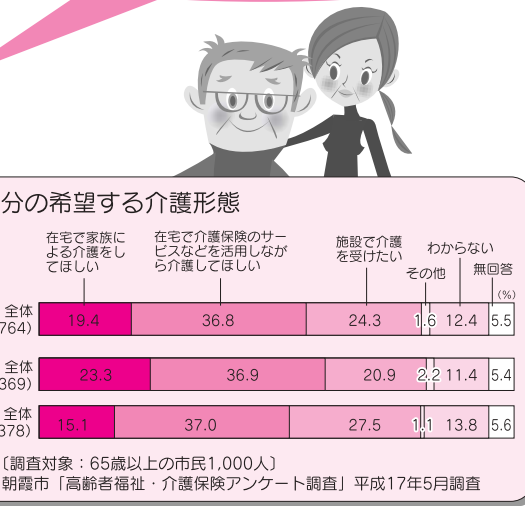
【50代】
 ●娘かヘルパーさん。気がねせずに頼めそう。(女性)
 ●介護のプロ&家族。プロだと安心、家族だけだと限界がある。(女性)
 ●ヘルパーさん。息子に面倒かけたくない。(女性) ●妻、子ども。家族であるから。(男性)
 ●介護度が低いときは家庭内で夫に。重度の介護が必要なときは、施設でプロに。(女性)

【60代以上】
 ●第三者。(ヘルパーさん、介護士等)。夫や子どもに負担をかけたくない。出来る限り自分のことは自分で責任を持つ。(女性) ●家族。一番安心できる。(男性)
 ●ヘルパーさん。他人だと、わがままをセーブ出来るから。肉親だと、すぐに喧嘩になると聞くから。(女性)
 ●専門家。子ども(娘)に負担をかけたくない。(女性)
 ●施設や介護保険制度を利用。家を出た娘たちに負担をかけるのは大変だと思う。実際に義母・実母を介護しての実感。(女性) ●元気であれば妻。何でも言えるから。(男性)

*「ヘルパーさん」は、介護保険制度では「訪問介護員」と呼びます。



男性介護者の6割が60歳以上



自分の希望する介護形態

希望する介護形態	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
在宅で家族による介護をしてほしい	19.4	23.3	15.1
在宅で介護保険のサービスなどを活用しながら介護してほしい	36.8	36.9	37.0
施設で介護を受けたい	24.3	20.9	27.5
わからない	1.6	2.2	1.1
無回答	12.4	11.4	13.8
その他	5.5	5.4	5.6

〔調査対象：65歳以上の市民1,000人〕
 朝霞市「高齢者福祉・介護保険アンケート調査」平成17年5月調査

在宅で家族による介護を希望する女性は少ない

◎介護、介護と多く聞かれる日々ですが、私は深く考えることもなかった。でも、する人もされる人も大変な事を知り、少しでも「笑顔」で出来るように今から心の準備をしておこうと思っ

◎私の友人の男性は超多忙な人だが、認知症の御母堂をお風呂に入れてあげて「当たり前のこと」と、やうつと言った。

◎頭の下がる思いだが、こうなると人間の資質の差なのかもしれない。

◎わが家には介護以前の問題がたくさんあると気が付きました。夫は、物のありかや暗証番号を知らない。安心して介護を受けるにはまだまだ道は遠い。

◎介護、介護と多く聞かれる日々ですが、私は深く考えることもなかった。でも、する人もされる人も大変な事を知り、少しでも「笑顔」で出来るように今から心の準備をしておこうと思っ

◎介護して欲しい対象としてあげられた「子ども」という言葉には、嫁や娘という姿が見える気がしました。昔の名残りなのではないか？

介護をするとき
 考えられるべきこと

Q 今後、親(パートナーの親)やパートナーの介護が必要となったときあなたは介護しますか？その理由は？

【30代】
 ●パートナーの両親は夫が主となって介護してほしい。自分はいくまでサポート。夫自身がそう考えているだろうし、そうあるべきだと思う。夫に介護が必要になったら自分が主となってしていく。パートナーだから。(女性) ●最後まで私が看たい。(元看護師)(女性)
 ●出来る限りで介護する。(男性)
 ●背負いきれなくなったら他人の手を借りるなり施設等の援助を求めたい。(女性)
 ●介護する。介護される側になって考えると、それが一番安心出来るのでは。(男性)
 ●出来る範囲ではしたいが、現実を考えると不安ばかりで恐ろしい。自分がそれらのストレスに対応出来るか自信がない。(女性)

【40代】
 ●義務感もあるが、当然のこと。してあげたいと思う。(女性)
 ●基本的にはYes。状況によるが、親類や兄弟と相談して一人に負担がかからないことが前提。(女性)
 ●必要に迫られれば、そうせざるをえない。(女性)
 ●出来る範囲でやる。特に自分の親を優先。介護保険制度を利用出来る範囲で利用し、家族でないと出来ない部分をやる。すべて私が背負い込むのはいろいろな面で危険だと思う。(女性)
 ●身内だと、いろいろな感情が加わるので他人の方がいいと思う。パートナーとなると少し違う考えですが…。(女性) ●子としてせざるをえない。(男性)

【50代】
 ●する。(せざるをえない?)他に頼める人がいないから。もしいたら、頼みたいと思う。(あるいは分担して…)(女性) ●家族として当然である。(男性)
 ●一人でするのは無理がくると思うので、ヘルパーさんの助けも借りてなんとか乗り切りたい。(女性)
 ●介護士、家族と一緒に介護する。一人だけで出来る介護は体力も精神も限界があると思う。(女性)

【60代以上】
 ●出来る範囲で。基本は介護保険制度を利用。愛情は注ぐが、自分が体力を消耗して共倒れにならないため。(女性) ●パートナーだから当然。ただし元気であれば。(男性)
 ●自分自身の健康状態や地理的条件もあるでしょうが、ずっとではなく、一週間に3回日中だけなら。(女性)
 ●お互いにそれを望んでいる。母親は住み慣れた家で最後を迎え幸せそうだったので。(男性)
 ●残るのは夫、もちろん私が介護する。出来れば介護保険制度を利用しながら在宅介護したい。(女性)

いつのときあなたには?



最近、介護にまつわる痛ましい事件をよく耳にします。人は誰でも老いていきます。自分は大丈夫と思って、いつか介護される側になるかもしれない。あるいは、パートナー、親の介護が現実になるかもしれない。だからこそ、自分の問題として一緒に考えてみませんか？30代から70代の市民の皆さんにアンケートに協力してもらいました。

同じ介護といっても、両親・主人とも癌で、余命が何か月と言われていたから、言葉は悪いですが「期限付き介護」だから、頑張れたんだと思います。何年も続くのであればとても一人では無理。(40代女性)

夫は長男ですが、遠くに住んでいるうえ夫婦共働きのため介護が出来ません。両親の近くに妹が住んでいるので財産も放棄し、毎月仕送りをして出来る範囲でやっています。(54歳女性)

去年、半年ですが母を自宅介護、病院での介護を経験しました。6人兄弟で交代で病院等のお見舞い、介護を含めて、本当に大変でした。勤めてもいたので、(体重も半年で5kg減りました。)つくづく家族での介護の限界を感じました。母は意識ははっきりしていたので、嫁や娘にトイレ等のことを手伝わしてもらおうのも嫌がっていました。まったくの他人の方が良い場合もあると思うこともたくさんありました。(症状と金銭的なことでそれぞれ異なりますが…)(54歳女性)

●当時、介護保険制度もなく認知症のことも良く理解できなかったため、実母に対してもっと良い接し方があったのではないかと悔やんでいます。(73歳女性)

●義母の介護は一人で非常に大変でした。今回母を介護するにあたり、施設等を利用しながら、娘の手を借り無理せず介護することが大切だと思いました。介護する人が疲れれば、笑顔で介護することが出来ません。介護される方のためにも心のゆとりが必要だと思いました。(70歳女性)

★アンケートにご協力いただいた皆さん、どうもありがとうございました。(*^▽^*)

「母のひとりごと」

中学生・高校生の男女平等意識を取り上げた前号の特集「男だから女だからって考えたことある？」のアンケートにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

この編集に携わり、皆さんに「性別に捉われず自分らしく生きて欲しい」と思うようになりました。そして、私の「自分らしさ」について久しぶりに考えるきっかけにもなり、昔、母に言われたある言葉を思い出しました。

私が小学校5年生の時、クラスで流行した消しゴムがありました。持っている友達がうらやましくて、母に「クラスみんなが持っているから欲しい。」と言ったところ、母の答えは、「クラスのみんなが死んだら、お前も死ぬの？」というものでした。貧しかったので、その消しゴムが買えないから言ったのか、今はもう

分かりませんが、それを買ってもらえないということより、その言葉自体がショックでした。もちろんそれまで「自分が死ぬ」なんて考えたことも無かったからです。

その時から、「他人と同じではいけない！自分の事は自分で考えていこう」と思うようになりました。

今思えば、それが私の自分らしさ探しの出発点だったのかもしれない。

もう1つ母から言われて心に残っているのは「叱るな子ども、来た道だ。笑うな年寄り、行く道だ。」です。これから私が行く道の先に待ち構える介護。介護することにも、されることにもどうやって向き合っていくかが、これからの私の最大の課題です。

皆さんは、ご両親に言われた言葉で、心に残っているものがありますか？
時には思い出してみませんか？

BOOKコーナー



あなたを守り家族を支える安心ノート

『老いじたく 覚書き』

野原すみれ&虹の仲間 著
晩聲社 ¥952+税



人は誰でもやがて老人になります。今は元気でも、ある日突然、自分の意志を伝えられなくなったら、寝たきりになったら、認知症になってしまったら...。そんな不安を安心に変えてくれるノートです。

使い方はとても簡単。項目にそって、○・△・×を付け必要なメモを記入するだけ。それだけで、自分は老後をどう過ごしたいか、どう生きたいか、葬儀のあり方まで浮かび上がり、どう準備すればいいかわかる仕組みになっています。

悩める女性のために
朝霞市女性総合相談

家族間のもめごとや対人関係の悩み、暴力や虐待、離婚問題などあなたの悩みや問題などに対して経験豊かな専門家がご相談をお受けします。

相談日 毎週木曜日
(祝・休日にあたる場合は前日)
時間 午前10時～午後3時
場所 市役所1階 市民相談室
問合せ 人権庶務課男女平等推進係
電話 048-463-2697 (直通)

*個人の秘密は守ります。 *相談は無料です。

編集後記

「介護」をテーマに仲間と語り合いました。人とのきずなを大切にしたいです。(虹)
初めて参加してとても勉強になりました。楽しかったです。(ホリ)
いろいろな人と出会い、学んだ1年でした。ありがとうございました。(さとちゃん)
家族や友人との間で「介護」というものが身近になりました。(空)

近藤孝子 佐藤京子 船富和代 松村洋子

一年間、ありがとうございました。

「そよかぜ」企画・編集委員より

ユニケーションスキルを高めるワークや食生活の自立、日本も含めたアジアにおける人権取引の悲惨な現状、男性の生きづらさなどについて学び、性別、立場、国の違いを乗り越えて互いを理解し、尊重し合うことの大切さについて考えるセミナーとなりました。



あさか女と男セミナーを開催しました！

いろいろ情報

「日本女性会議2007ひろしま」に参加しました！



昨年10月19日(金)・20日(土)の2日間、広島県広島市で行われた第24回日本女性会議に、朝霞市から4名が参加し、男女共同参画社会の潮流等について学びました。

初日は、「食育」や「女性のこころとからだ」など、テーマごとに16の分科会に分かれて活発な学習が展開されました。2日目は、内閣府男女共同参画局長からの報告、吉行和子氏(俳優)による記念講演等が行われ、男女共同参画社会をいかに進めていくか等について、現在の国の取組や企業の取組など、幅広い視野からお話を伺いました。3,500人を超える参加者を得た会議は、盛況のうちに幕を閉じました。

*詳しくは、市役所をはじめ、市内各公共施設に設置している『日本女性会議報告書』をご覧ください。